

評価シートについて

A		B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA				
1		単元7		式と計算																											
2		授業評価																													
3		配点		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
4		No		6	0	0	4	5	0	2	7~8	0	1	3	0																
5		具体的評価基準		A		B		C																							
				B		C																									
				C																											
7		氏名		関心	関心	関心	思考	思考	思考	表現	表現	表現	知識	知識	知識	関心	思考	表現	知識	関心	思考	表現	知識	関心	思考	表現	知識	関心	思考	表現	知識
8		A児																													
9		B児																													
10																															
11																															

普通の授業での様子や、ワークシートなどの表現物を簡単に評価し、データを蓄積できるようにした。

児童の名前とともに、評価規準、判断基準が明記されている。またエクセルを活用し、点数合計も入力と同時に出来るよう作成している。教科書の巻末のテストと県版テストも入れている。

判定シート

A		B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	
1		氏名		得点合計				配点合計	達成度				判定				観重み合計	評定判定
2				関心	思考	表現	知識		関心	思考	表現	知識	関心	思考	表現	知識		
3				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4		1 A児		0	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	####	
5		2 B児		0	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	####	
6		3		0	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	####	
7		4		0	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	####	

評価と指導の一体化として、「算数振り返りカード」を活用している。児童のふり返りから、つまづきをチェックし、個別指導する。児童と教師のコミュニケーションの場となっている。

家庭学習は、単元計画を見ながら、次時の単元の系統性を考えた宿題を算数プリントとして出している。

保護者との連携（情報提供）として、学年便りを通して、教材の指導観や習熟できていない学習内容を紹介したり、練習問題を掲載し学習内容の定着を図ったりしている。

【このシステムを使つての成果】

評価と指導の一体化ができる。教師自身が授業に責任をもち、実践を反省することができる。次時へ生かすことができる。発問と評価の統一性ができる。教師間（担任と少人数担当）の打ち合わせの必要性がでてくる。

児童への指導ポイントが明確になる。（学年間の教師の足並みがそろそろ）児童に対する励まし、分かるための具体的な手立てができる。

単元終了後に学習状況が把握できる。児童への助言の目安ができる（ここをこうがんばればできるよ）

学年団での打ち合わせが確保できる。いろいろ相談することができ、学年団での格差を無くすることができる。

テスト重視の歯止めにもなる。

【今後の課題】

現在のシステムでは、児童が単元においてどのように伸びたのか、また何が原因でつまづいているのか、評価にあ

らわれてこない。この評価システムは、時間後の評価（児童のワークシートを見ながら）に偏っている。そのため、授業内の児童の気づきや、一般化するような発言などが評価しにくい。また、評価結果をその都度フィードバックできるようにするためには、どうしていくことがよいか。

(2) 討議の概要

Q．関心・意欲・態度の観点を見取った具体例を紹介してほしい。

A．三角形のところなら、3辺の長さを意識しながら、多くの種類を作ると関心意欲が高いと判断した。

発表を評価にどう入れていくかが課題。現時点では点数化には入っていない。

意見...重み付けをするかどうかの問題。4つの観点は等しくしなければならないのではないかと。

意見...得点化すると、事務的効率化の一方で、個人の変容が埋没する。1時間内、単元内での変容をつかむことができない。得点化だけで終わるのではなくて、質的なもの（児童と教師のコミュニケーションの内容、コメント等文章の記録）も合わせて、両方使うとよい。

Q．客観的なものを出していく。数値を出すことだけが客観的なものなのか。ワークシートに表れない発見やつぶやきをどう扱うか。主観かも知れないが、それを得点化しようとは考えていない。ワークシートだけで日々の評価が終わっていないか。

A．ワークシートを使うと目に見える事後の評価が中心になる。授業内のつぶやき等は、例えば、面積の求め方では、より効率よく求めようとした子、統合しようとする子にチェックを入れておいて、+ していこうと打ち合わせしている。

意見...個人ののびをどう取り上げていくか。座席表を活用し、つぶやきや考えをメモしておいて、算数振り返りカードのなかに教師がみとったのびを書き加えて返している。1時間の中での全員の見取りは難しいので、対象を決めて行っている。

統計的な処理として最終の評定をするのはよい。とらえにくいものを何とかとらえようとしている。授業改善にどのように生かせるかが大切。思考力が弱い子どもにどうすることが思考力を育てることになるのか。あなたは、このことをするとAランクになりますよBランクになりますよ。どうすることが必要なのか、その手立てができていたらよい。

(3) ご指導の概要

短時間で評価するにはよい方法である。授業をやりっ放しでなく、数値で残すことが大切。打ち合わせの時間が取れるようになることはよい。毎時間自作のプリントをし、月末テストを作り工夫している。そのことが手立てになり、説明材料にもなっている。